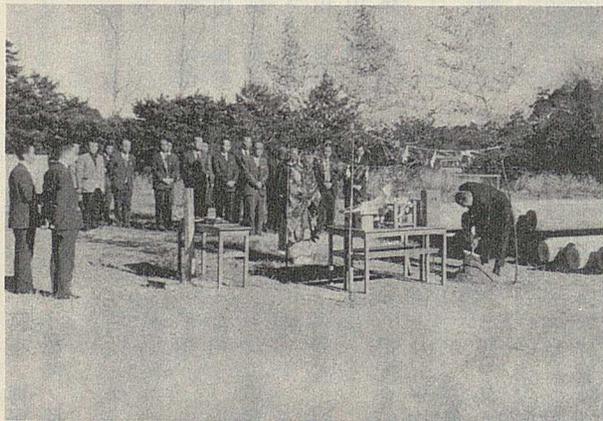
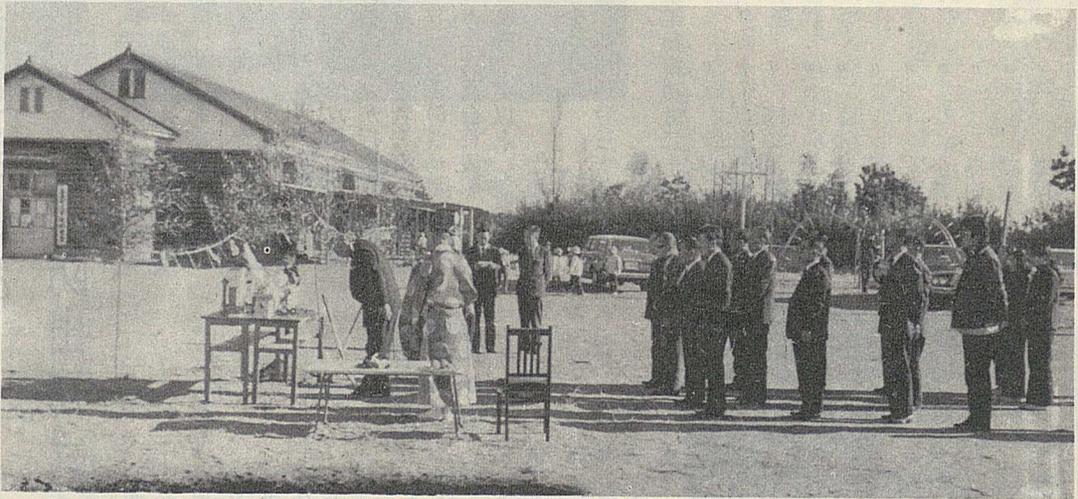


たまつぱり

報

人口と世帯数
 49年2月1日現在
 (単位・戸、人)
 総人口 13,966人
 男 6,841人
 女 7,125人
 世帯数 3,078戸

(毎月1回発行) 発行人町長 坂本常蔵 昭和38年 1月23日 第三種郵便物認可
 印刷所 さんゆう社印刷 定価10円



▲幼稚園＝玉造

◀屋内運動場＝玉造小

新春

起工式二点

教育施設も着々と整備され新春一月十一日には、玉造小学校屋内運動場新築工事、玉造幼稚園防音改築工事の起工式が行われました。幼稚園においては今年度中(四十八年度)に躯体工事を済ませ完成は四十九年十月の予定で進められます。建物の面積は四〇六平方(保育室二、遊技場ステージ、職員室、保健室)の構成で冷暖房が完備されます。この工事は国補助九〇割で造られるものです。

つぎに玉造小屋内運動場新築工事は現原小に次いで二つ目の建築工事になります。建物の大きさは六百三十平方、床面積五七八・〇四平方のものであり、施設の内容は普通屋体の形式で、八百人余の収容できるものです。文部省二分の一の補助で建築されるものです。いづれも、完成された後の児童・園児のよろこびが間近になりました。



—はたちを考える— 「おとな」成人ということ

生活関係からみると
私達の生活関係を法律的にみれば、公法と私法とに区別できますが、社会生活を営む上において例えば、物の売買とか、金品の貸借とか、いろいろの法律行為をする必要が

一般的には満二十歳に達したことをもって「成人」としています。
わが国では戸籍制度が整備され、出生から死亡までの身分関係の変動がすべて記録され、公に証明できるようになっています。したがって成人者かどうかは、この戸籍によって容易に証明できるわけです。

生じてきます。成年に達した者は、こうした法律行為を独立して、完全有効に行う能力が認められています。反対に未成年者は、単独で完全な法律行為をすることはできません。原則として親権者である父母の同意を得なければなりません。

成人になりましたと、種々の権利や行動の自由が与えられる代わりに、社会人としての責任の面においても一人前の扱となります。
公職選挙法によって満二十歳以上の者が、衆議院議員・参議院議員・各人の住んでいる都道府県・市町村長及び地方議会議員の選挙権をもつこととなります。

例えば、未成年の間は禁じられていた酒を飲んだり、たばこを吸ったりすることも自由になります。その反面、法律に違反し、犯罪を犯した場合には完全に一人前の「おとな」として扱われることとなります。

ことしも三百三十八名の方々が去る一月十五日に成人を迎えました。
この日は、中央公民館を会場にして大人の仲間入りをする人たちが百八十名余が集まり、ことしから新しい形式で「成人のつどい」にのぞみ沢山の人からお祝されました。従来

おめでとう —四十九年成人式—

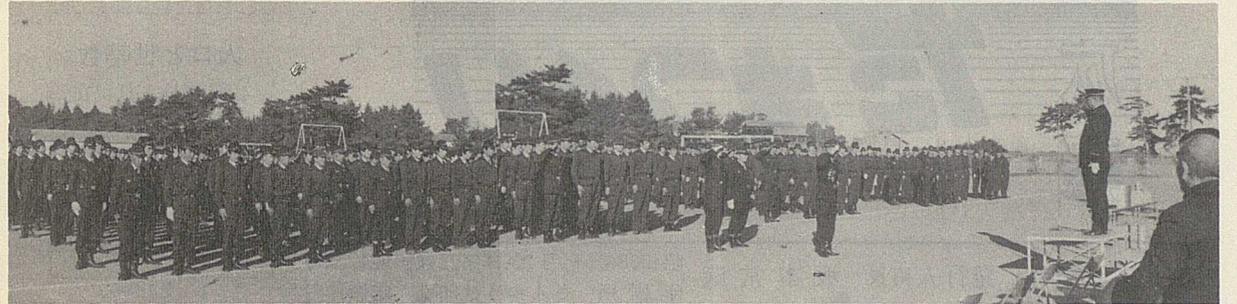
の式中心の型を変えて、パーティ型のため参加者も好印象、各テーブルごとに来賓の方々が入って自由に交換、中央青年の家から富山教育課長が来席し、ゲームの指導などがトラクションも楽しく、各地区ごとに記念撮影をしスケジュールの全てを終りました。



—成人となって一言—
男・成人になった様な気がしない、期待にそえるよう自分なりの活動をしたい。



女・やはりうれしい
成人になったの責任を感じます。
男・今日の成人式は楽しかった



きびきびと

消防出初式

新春の一大行事消防出初式は、一月十三日玉造中学校校庭で挙行されました。この日も一段と寒さのきびしい中できびきびとのぞむ団員の態度は消火の力を思わせました。人員・服装の点検に続いて機械器具の点検が行われました。なお、功労者・協力者等々の方々が表彰されました。

●日本消防協会会長表彰
勤続三十年以上（敬称略）
大和田徳男

●県知事表彰
永年勤続功労三十年以上
藤崎 元信

永年勤続功労二十年以上
林 忠明
松本 操
滝崎 英治
代々城 愈
大和田 孝
藤田 勝善
弓削 章
小貫 実
島田 一
望月 敬司
栗俣 仁

自治消防二十五周年特別表彰
彰消防教養指導者
曾根 重信

●町長表彰
県・郡ポンプ操法競技大会優勝チーム
第一分団第二部 藤崎 元信
第二分団第三部 島田 福寿
第三分団第四部 飯島 具之
本 部 鈴木 敬正
仲田 勝善
吉藤 栄二

優良部
第一分団第一部 齋藤 清一
第二分団第四部 野原 易
第五分団第四部 堀田 庄吉
堀田 金重
橋本 義男
野島 義雄
小沼 洋二
藤枝 進
中島 恒夫
神田 由也

●功労者
宮本 博房
小松崎 隆
黒髪 保行
萩原 浩
島田 進一
郡司 重雄
石川 重雄
幡谷 誠
井野場 誠

●畜産経営資金の利子補給
制定を急ぐ
茨城県緊急飼料対策基金条例が制定されました。昭和五十一年七月三十一日までとし貸付期間は二カ年以内で、融資限度額は一飼養者当たり三万から六百万円までの範囲で次のような基準で貸付けられます。

畜種	単位	貸付基準額	畜種	単位	貸付基準額
採卵鶏	100羽	16,900円	乳用牛	1頭	5,200円
育すう	100羽	10,100円	肉用牛	1頭	4,600円
ブロイラー	100羽	15,100円	うずら	100羽	3,100円
豚	1頭	1,800円			

「忘れるな山のこころえ
火のしまつ」

全国山火事予防運動
49年2月28日～3月6日

高齢者教室(玉雲大学)

クラブ活動紹介

町内老人クラブ会員(おおむね六十歳以上)による高令者教室は四十八年十月、四十九年三月の期間に、定例毎月八日と定めて開かれています。町内の老人クラブも日ごとに盛んになってきたこの頃、旧玉造地区内の老人クラブ会員による高令者教室を設けたのが、計画の始まりとのことです。目的なども実にふさわしいねらいです。

・社会の変化と若い世代の理解を深める。

・健康の維持につとめる。

・趣味と娯楽に親しむ。

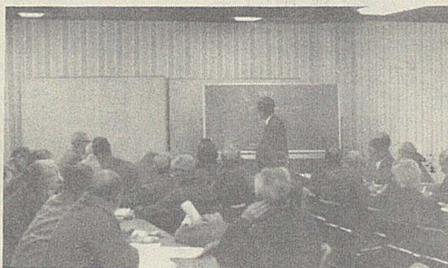
ゆたかな心づくりをと延四十時間(六カ月間)開く予定で進んでいます。なかなか全会員というわけにもいかないため、各老人会より五、六名程度で出席者名簿が構成されており九十割以上の出席率を占め熱のはいった教室ぶりです。一回から七回までの学習課題はもとより、その後のクラブ活動などは熱のはいりもひとさわ、現在七十七名の会員で五クラブ(盆栽・生花・詩吟・民謡・将棋)の活動も盛ん



に行われています。今では町内全老人クラブ会員が目を注ぎ、三月には、現在の出席者は、つづがなく全課題を四十三単位取得を済ませ卒業を迎え、四月からは新たな出席者に切り替えられるとのこと、思わず「ニコッ」と笑みでの活動ぶりです。社会教育も中広くすすめられていることがわかります。県社会教育主事(大塚信也)氏が、毎回講師、助言者として来られています。

「生きがいのある人生」を過し、「社会の発展に寄与する」という計画目標を長く明るく続けたいものです。

クラブ活動の一端



季節の話題

春を迎える



二月という月は、俗に逃げる月といわれるくらい、日のたつのが早く、あつという間に過ぎていってしまいます。農家では、間もなく始まる農作業への準備などで、忙がしくなるのは目に見えてきました。

クラブ 講 (敬称略)

盆栽 遠藤愛明
生花 笹目雄峰
詩吟 菅仲島均
民謡 菅谷吉蔵
将棋 関口金蔵

参加二名のためなし



一般のご家庭でも、お子さんがたの進級、進学から、卒業、就職など、心配とよろこびが重なって、いつもの月とは違った気のかれる月でしょう。とくに進学するお子さんをもつご家庭では、いまの受験制度を、もう少しなんとかしてやりたいという気持ちで、なんとも落ちつかない毎日ですが、なるべくお子さんの前で深刻な話はやめていただきたいものです。



玉造町PTA連絡協議会が主催した(会長八木豊氏)指導者研修会は、去る一月三十一日玉造西小学校を会場にして、行われました。PTA活動も県内では鹿行が盛んであることも、このような会が計画的に位置づけして行われているところからの結果的なものであるという見どころのある研修風景で当日は一段と寒い日であるうえにど

玉造町P連指導者研修会

こ け く き か
|| || || || ||
行動 研究 工夫 記録 考え

の県民に

空であって、寒さを重ねたよいうな特日に、各単Pの町内学校単位に数名ずつのPTA指導者が出席され会場校の一年生から六年生の親子学級会活動参観から始めて、午前中は三分科会に分かれた研究協議会が行われ、午後は全体会の時間を設け、各分科会から得られた何ものかを助言講師として出席された先生方から寸感として話されるなど、寒さを通りすぎた熱のある研修会もようでした。

第一分科会のテーマは「教育環境の改善と充実のため、どのように協力するのが望ま



しいか

▼これについて会場校西小PTA施設委員長「石井宏夫」氏から、施設委員の実践発表があり、環境整備・努力目標・計画・活動の実際・今後の課題と協議が行われました。助言講師として鹿行教育事務所社教課長「酒井幸助」先生がこの分科会に望み一緒に協議されました。

第二分科会「母親文庫運営の質的向上を図るにはどのようにしたらよいか」

▼これについて、西小PTA図書委員長「松沢淑江」さんの活動実態の発表があり、参加したお母さん方は助言講師、県立図書館より来られた「宮崎巖」先生とともに一段と熱のはいった協議が見られ、助言先生がわかり易くお母さんPTA会員のふだん働かざる細包を動かした交わりが見せどころでした。

第三分科会では「学校給食指導の振興へどのように協力したらよいか。」

▼これについて、給食センター栄養士「磯山千賀子」さんの提案発表がなされ、助言講師として、鹿行教育事務所社教主事「藤田包雄」

先生を交えて、学校給食のねらい・今後の見通しと課題・家庭へのお願いなど熱心な協議ぶりでした。

午後の全体会に於いての研究主題は「激動する社会情勢と地域の実態に即したPTAの運営はどうあるべきか」という難しいことでありましたが、午前中に行われた各分科会・会場校で計画した親子学級会活動を見ての寸感が講師の三先生方から述べられ、その中のいくつかはつぎのようでした。

・PTAは地域に即したアイデアを生かして郷土を知ってもらいたい。

・PTA会員でもあり、反面家庭においては両親でもあることから、子供には、きびしさのある愛情をもって接し、考え・記録し・研究し・行動する県民になって欲しい。

・学校給食は教育の中にはつきり位置づけられているものである。

・PTAの年度計画を会員全体に早く周知しておき感心をもってもらおう。

以上のようなことが話しに折りこまれ、現在の国際的活動の根源というところで全体会は終えたようでした。

